

地域活性化という「遊び」

47

京都市
福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

農場のカフェに新しいコーヒーマシンがやってきました。

限界集落に不釣り合いな最新式のマシンです。

子供たちが

コーヒーとミルクで

カップの上に様々な模様を描く

ラテアートというものに興味を持ち

家庭用の機械でラテアートの真似事



コーヒーに熱中する三男。
さてワールドチャンピオンになれるのか。

をしているのを

SNSで見かけた友人が

「使っていないのがあるから使ってみる？」と

快く貸してくれたのです。

機械というものはボタンひとつで簡単に人間を助けてくれるようなイメージがあります

このラテアートに使うコーヒーマシンはかなり事情が違います。

使い方によって

コーヒーの味や見た目が

大きく左右されてしまうので

大人でも使いこなすのは大変。

ラテアートを仕事にされる方は

数年の修行が必要

とも言われています。

実はこの機械を貸してくれた友人は

子供が夢を持って

周りの人たちにも夢を与えられる

子供が夢を持って

周りの人たちにも夢を与えられる

子供が夢を持って

周りの人たちにも夢を与えられる

子供が夢を持って

パン屋さんで

店舗で使うつもりで買ったのですが

操作があまりに難しく

結局放り出してしまった

というのが貸してくれた理由のひとつです。

僕自身も若い頃

アルバイトで使った経験もあって

その扱いの難しさは知っており

果たして子たちが使いこなせるかどうか不安ではありましたが

どんなことでも興味を持ったなら

とりあえずやってみよう！

というのが我が家のポリシー。

二つ返事で即日

機械を引き取りに行きました。

使

ってみるとさすがに業務用。

ミルクを泡立てるスチームの

練習に次ぐ練習

数々の失敗の末に成功が。

最初はその力を持って余してしまい

出来上がりは

惨憺たるものでしたが

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人々が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダッシュ村副村長。



練習に次ぐ練習
数々の失敗の末に成功が。



初めて見るラテアートに
集落のお年寄りもびっくり。



たった1カ月で
プロ顔負けに……



豆の焙煎もとりあえず
やってみようということで。

驚くほどに上達。
早くも週末のカフェで提供も始め
出来上がったコーヒーの美しさにお客さんも驚きを隠せません。
子 たちの物事を身につける速さについて

なぜ? どうして?
とお客さんに聞かれたこともあり
ちよつと考えてみました。
子供は物事を難しく考えないという
のも大きいですが
こういう子たちは
「自習する癖」が付いているのでは

ないかと思っています。
近頃は田舎でも
小学校の時から塾に通い
中学ともなると塾へ行っていない子は
ほとんどいない
というような状況ですが
うちは遊びも勉強もすべて自習。
さらに上を目指し
自習では難しいとなった場合
先生は自分で見つけること!
というのを習慣にしてみました。
僕自身子供の通信簿は
ほとんど見たことがないので

あまりわかりませんが
勉強のことで学校から
お叱りを受けたことがないので
自習でも十分こなしていたんだろう
と思います。
学校での学びについては
興味のある授業の時間が短すぎると
子供から
不満を聞いたことはありません。
興味を持ったテーマができる
子供は一日中でもやっていたいとな
るので
学校だと一科目が45分
長くてもそれが2回で90分くら
いでしょか。
それでは何かに夢中になった子
供に対して時間が短すぎて
せっかくなついた好奇心の火は消
えてしまうんではないかと思
います。
家庭での学びでは
子供が熱中している時、一食く
らい食べなくても大丈夫、二、
三日お風呂入らなくても大丈夫
夫、たまの夜更かし大丈夫と
できるだけ子供の時間を
細切れにしないように心がけて
きました。
仕事や家庭の時間割を
子供の成長や日々学びたいこと
に合わせてやりくりしていける
のは

こんな田舎で農業という生き方を選
んだからかもしれません。
ラ テアートを好きだけやっ
たら飽きるだろうから
そこそこ習得した時点で機械は返却
しようと思っていたのですが
やればやるほど興味がわいてしまっ
たらしく
一番熱中している三男が
20歳になる前にラテアート世界大会
でチャンピオンになる!!
とまで言い出し
最近ではコーヒの焙煎まで始めてし
まったので
マシンはしばらく借りることになり
そうです。
それを聞いて
農場カフェでコーヒを飲んだ
じいちゃんばーちゃんは大喜び。
実はこの人たち最近ゲートボールの
府下大会で優勝したらしく
競争は大好き。
こんな小さな集落から
コーヒ世界チャンピオンが出るな
なんて夢みたい!
応援に行きたいから三男がチャンピ
オンになるまで元気で長生きしない
と!と
みんな目を輝かせていました。
どんなことでも子供が夢を持つとい
うことは周りの人にも夢を与えるん
ですね。